

その他の宝物

石上神宮はその歴史の初期から、刀剣や甲冑、その他の神宝の貯蔵所であった。実用的な
武具と儀式用の武具の宝庫としての役割は、朝廷の軍事的・宗教的な分野を監督していた
物部氏との密接な関係を反映している。今日、この神宮の宝物の多くは重要な歴史的遺物
となっている。

日の御盾

この一対の鉄製盾は5世紀中頃のもものとされる。この盾は新天皇の即位式に建てられた仮宮
を守るために象徴的に使用された祭具である。高さ約140センチ、横幅約70センチの盾は、
大人を覆うには十分な大きさだが、金属の薄さから、戦場に持ち運ぶものでなかったことは明ら
かだ。

(古くて壊れやすいため、盾は公開されていない)。

色々威腹巻 (いろいろおどしはらまき)

この腹巻鎧は、丈夫な革や鉄の札を何百本も編みこんで作られている。九段に分かれた草
摺や湾曲した胸板などのデザインから、1500年代か1600年代に作られたものと思われる。こ
の鎧は、赤、白、黄、紫の威と、大袖、胸板、兜の札のデザインがそれぞれ異なっていることが

特徴である。甲冑は現在、奈良国立博物館に保管されている。

鎧櫃

この松材の木箱は、拝殿を囲む壁に沿って置かれている。地味な外見とは裏腹に、この木箱は歴史的な遺物である。木箱の蓋の裏側に墨書されたメッセージから、この木箱が1365年に作られたことがわかる。伝統的な意味での神聖さや貴重さはないが、来訪者が近づいて触れることができる650年前の物であることは注目に値する。